課題番号：DB2931

新聞記事から読み取る「アイビー・ファッション」の社会的受容

― テキストマイニングを通じて ―

Social Acceptance of “Ivy Fashion” Reading from Article of Newspaper
－Through Text Mining－

松ヶ瀬 美歩
Miho Matsugase

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 修士課程

キーワード：アイビー・ファッション，新聞記事，内容分析
Key words：Ivy Fashion, Newspaper, Content Analysis

１．研究目的

本研究は，新聞記事に出現する言葉を対象とし，戦後若者の間で流行し，その後の日本のファッションに与えた影響も大きいとされる「アイビー・ファッション」の，流行と拡散から消滅，さらに，再流行から定着といった過程で，社会的受容の変化について，明らかにすることを目的とする．

２．研究実施内容

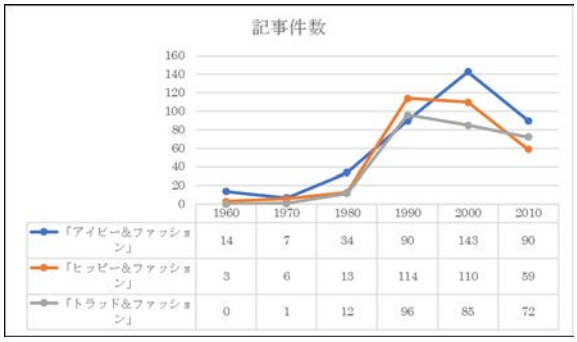
記事内容の分析に入る前に，新聞記事件数の推移について見た．新聞は，朝日新聞，毎日新聞，読売新聞，日経新聞とした．データベース名はそれぞれ，『朝日新聞 聞蔵ビジュアル』，『毎索』，『読売新聞ヨミダス歴史館』，『日経テレコン 21』である．期間は 1960 年～2017 年で，記事総数は 378 件であった．

各新聞社データベースのフリーワード検索で，「アイビー」と「ファッション」を AND 検索した．すると，1960 年代を基準に，1970 年代に一度減少，1980 年代以降は増加していた．一方，「ファッション」のみの検索では，1970 年代の減少は見られず，1960 年代から増加し続けていた．[図 1]

1970 年代に見られる特徴について，「アイビー」特有のものであるか確かめるために，「ヒッピー」，「トラッド」といったスタイルについても同様に調べてみたところ，1970 年代の記事件数の減少は，見られなかった．

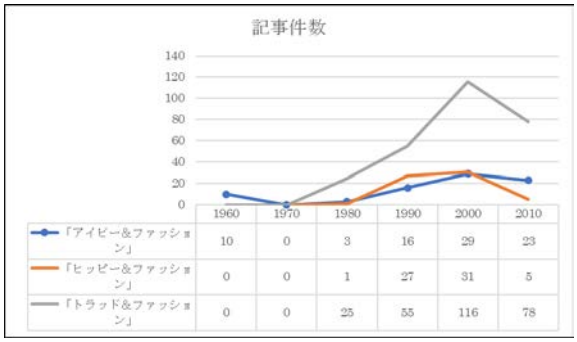
次に，1970 年代の記事件数の減少について，新聞記事特有のものであるのかを確かめるために，雑誌記事でも確認をすることにした．

結果，「アイビー」のみ，新聞記事と同様に，1970 年代に一度，記事件数が減少していた．このことから，1970 年代の記事件数の減少は，新聞と雑誌といったメディアに影響するものではなく，「アイビー」のもつ特性であることが分かった．[図 2]



	1960	1970	1980	1990	2000	2010
「アイビー&ファッション」	14	7	34	90	143	90
「ヒッピー&ファッション」	3	6	13	114	110	59
「トラッド&ファッション」	0	1	12	96	85	72

図 1．記事件数



	1960	1970	1980	1990	2000	2010
「アイビー&ファッション」	10	0	3	16	29	23
「ヒッピー&ファッション」	0	0	1	27	31	5
「トラッド&ファッション」	0	0	25	55	116	78

図 2．記事件数

次いで，内容分析を行った．ここでは，テキストマイニング手法で解析した結果を分析した．テ

キストマイニングには,『ユーザーローカル』を使用した.

1960 年代とそれ以外の年代のテキストを比較解析した結果,「文書ごとの出現頻度による単語分類」は，以下のようであった．それぞれの表の中の単語は，出現頻度が多い順に並んでおり，青色が名詞，赤色が動詞，緑色が形容詞である．[表 1]

表 1．1960 年代

1960にだけ出現	1960によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
コンチネンタル ヨーロッパ コンチ 近ごろ アイビ ロングスカート ロンちゃん ブリティッシュ 先生 気持ち エリ はじめる 物申す 学校 キャンパス ブラウス 化粧 ハニーピンク 口紅 ももひき ツンツルテン ボロ ティーンエージャー 男女 七月 なかば 下火 新鮮味 商売 手段	スタイル アメリカ みゆき族 大学生 雑誌 裏い アメリカ東部 若者たち 生活 一つ 生まれる ミツ あこがれ エリート 行く 個性 ズボン ハーバード 彼ら 出る 洋服 感覚 基本 経験 現代 制服 最近 学生服 ツタ 得る	アイビー 若者 日本 大学 着る 戦後 提案 服装 呼ぶ 若い 銀座 伝統 知る 持つ 登場 風俗 ボタン 思う いく	ルック 流行 学生 石津謙介 人気	ファッション 年代 VAN 米国 アイビーリーグ ブランド ボタンダウン シャツ ブーム 東部 男性 石津 名門大学 世代 当時 時代 ブレザー 写真 東京 受ける 復活 紹介 トラッド 集める ジャケット 名門 おしゃれ 服飾 カジュアル デザイン

1960 年代で最も特徴的なこととして，他の年代ではほとんど見ることのできない,「補導」,「非行少年」,「物申す」,「おどす」,「つかまる」といったマイナスイメージの言葉も出現することにあった．これは，1960 年代当時,「アイビー」というスタイルが，社会からやや批判的な目線で見られていたことを示している．

1970 年代は，他の年代では見ることのできない「企画力」,「日本市場」,「組合」といったような言葉が出現していた．[表 2]

これらの言葉が含まれる文は,「アイビールックが一世を風びしたほど商品企画力は抜群だったが,販売ルート作りに出遅れたのが致命傷になったようだ.」,「折しもファッション業界では，ヴァンが日本市場に持ち込んだ「アイビー・ルック」が再び若者に人気を集めていることもあって,「再スタートには恵まれた環境」というのが組合の言い分.」であった.「倒産」という言葉についても抜き出してみたが，記事は 1 件，それも，倒産から一年後に書かれたもののみであった．

さらに，1970 年代は,「ヴァンジャケット」や「VAN」と, 会社名やブランド名が出現していた．これらは 1960 年代には出現していない．このことから 2 つの年代において，社会の注目点が，異なっていたと考える．1960 年代は，若者のスタイルや言動に, 1970 年代は, 会社の倒産に注目された．

表 2．1970 年代

1970にだけ出現	1970によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
企画力 女児 十分 皮算用 持ち込み 満出 繊維 あおり 丸紅 商社 都会 ひところ えり クツ 春風 季節 ヴァンジャケット 破壊 風び 抜群 致命傷 スイムカット 日本市場 スタート 環境 組合 言い分 一年 ルート 生き抜く	若者 人気 アメリカ 大学生 みゆき族 集める カジュアル 縫身 若者たち 風俗 できる ボタン デザイナー 倒産 一世 VAN ズボン 中心 商品 カット 全国 現代 シンボル 支持 ヒッピー 白い ヴァン ウエア 岡社 本場	アイビー ルック ファッション 流行 スタイル 米国 シャツ ボタンダウン 東部 石津謙介 受ける 生み出す		年代 VAN 日本 アイビーリーグ 学生 ブランド ブーム 石津 男性 世代 大学 名門大学 着る 当時 ブレザー 時代 戦後 提案 写真 復活 服装 紹介 おしゃれ 若い 東京 呼ぶ トラッド ジーンズ ジャケット 銀座

新聞記事の推移から分かるように，1980 年代から記事件数が大幅に増加していた．

「単語の出現頻度」を見ると,「考え方」,「伝統」といった言葉もあり,「アイビー」というスタイルは, 外見のみだけではなく, 内面についてまでも, 重視されていると分かった．この傾向は，1990 年代以降にも見ることができた．[表 3]

表 3．1980 年代

1980にだけ出現	1980によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
外見 断言 確実 期生 スピリット オリエント時計 継続 左右 信じる やむ 増える 組み合わせる はず 値段 侵越感 共感 理解 ひと まわり 年長 学園 日本の大学 首都圏 大学生協 勢い 増減 一段落 海岸 予測 復古	大学 ジーンズ 大学生 おしゃれ 多い なかった 風俗 いく メンズ 昭和 象徴 アメリカ東部 リーガー エリート キャンパス コーネル 高い 後半 成長 ハーバード 男子 はじめ エール 社長 中心 衣料 本社 期待 精神 ハーバード大学	アイビー ファッション 流行 スタイル 若者 アイビーリーグ シャツ 石津 ブーム 世代 男性 当時 着る ブレザー 復活 みゆき族 名門 アメリカ デザイン ミニスカート カジュアル 雑誌 入る 登場 平凡パンチ 倒産 縫身 若者たち 彩度 表紙	ルック 年代 米国 ブランド 学生 ボタンダウン 日本 東部 名門大学 時代 写真 提案 ジャケット 受ける 戦後 取り入れる 服装 紹介 洗礼 知る 集める 見る 着こなす	VAN 人気 石津謙介 若い 呼ぶ トラッド 銀座 東京 包む 話す 団塊世代 服飾 団塊の世代 言う スーツ ボタン ライフスタイル 私大 集まる 文化 ヴァンジャケット 生み出す 持つ パンツ 一世 広める あこがれ 三つ 高校 ふうび

また，1980 年代は,「復活」という言葉がはじめて出現した.「復活」と言うのだから，一度は消滅したということである．一文を抜き出すと,「アイビー」が復活の兆しにあったことが読み取れた．またそれに対し，読売新聞 1988 年 2 月 25 日の記事で石津謙介氏が,「最近，アイビーの復活というが，僕にいわせりゃ継続だ」と話していた．

また,「復活」という言葉は, 1990 年代から 2010 年代にも出現していた. このことから,「アイビー」の第一次流行は 1980 年代以前と考えるのが妥当で，以降は再流行と考えられる．[図 3]

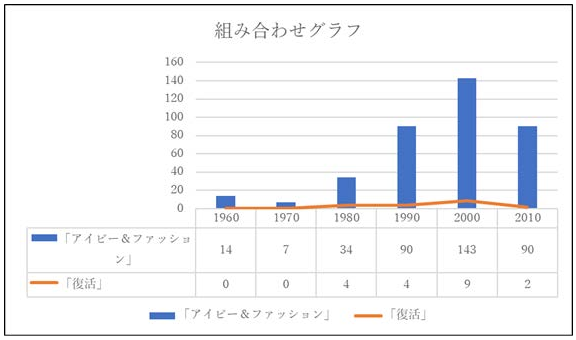


図 3.「復活」

次に，「共起回数」を見た．すると，「アイビー／ファッション」が 25 回で最も多く，続いて「アイビー／ルック」が 14 回であった．1990 年代以降全ての年代についても，「アイビー／ルック」が最も多く，続いて「アイビー／ファッション」が多かった．また 1980 年代以降は他にも，「アイビー／年代」，「アイビー／流行」という共起が，上位に必ず出現していた．このとこから，1980 年代以降，「アイビー」というスタイルに対して，社会の評価は，大きく変わっていないことが考えられる．

1990 年代は，「生活文化」，「ライフスタイル」といった言葉が特長として出現した．[表 4]

「ライフスタイル」を『CiNii』でキーワード検索をしてみると，1960 年代に 1 件，1970 代に 40 件，1980 年代に 311 件，1990 年代に 1891 件，200 年代に 3740 件，2010 年代に 2435 件となり，1990 年代以降に大きく注目され，使われるようになった言葉だということが分かった．

このことから，「ライフスタイル」は，「アイビー」と特別な関係があるというよりは，1990 年代との関係が強いということが考えられる．

表 4．1990 年代

1990にだけ出現	1990によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
ぼく　合う　松屋 百貨店　坊ちゃん　魅力 人生　大衆　ファン おばさん　出品 生活文化　時期 ムーブメント　秋元 主催　会場　モッズ 動き　種か　リーダー プロデューサー ケネディ大統領　衣服 ジーパン　さま つながる　凝る　迎える 石井	戦後　服装　おしゃれ ライフスタイル アメリカ東部　ＩＶＹ 伝統　文化　男子　生活 一つ　展示　出身 リーガー　東海岸 ズボン　洋服 メンズクラブ　言葉 英国　発表　である ＤＣ　映画　つく　一部 ネクタイ　ツタ 学生時代　最初	アイビー　ルック ファッション　年代 流行　スタイル　若者 日本　学生 アイビーリーグ ブランド　ボタンダウン ブーム　石津謙介　世代 大学　着る　アメリカ 当時　時代　東京　若い 受ける　紹介　復活 トラッド　大学生　銀座 雑誌　名門	ＶＡＮ　米国　シャツ 東部　人気　男性　石津 名門大学　ブレザー 提案　写真　呼ぶ みゆき族　集める　包む ジーンズ　取り入れる デザイナー ヴァンチャケット できる　見る　パンツ 平凡パンチ　思う ブレッピー　いく 生まれる　団塊の世代 一世　広める	ジャケット　装い 団塊世代　ボタン コンチネンタル　三つ 倒産　集まる　定番 象徴　表紙　合わせる 私大　個性　風潮　評論 カット　大阪　としゆき 学ぶ　愛す　写真集 ヒント　着こなし ＴＡＫＥ　全国　クラブ 手本　描く　設立

各年代に出現する国を見ると，1990 年代以降，「米国」や「アメリカ」のみでなく，「日本」や日本の地名も多く出現していることが分かった．[表 5]

このことから，アメリカ発のスタイルと紹介されていた「アイビー」が，昔日本で流行した懐かしのスタイルという認識も加わったと推測する．

表 5．国・地域・地名

年代	出現頻度		
	1 位	2 位	3 位
1960	アメリカ東部	日本	ヨーロッパ
1970	―	―	―
1980	米国	アメリカ東部	アメリカ
1990	日本	銀座	米国
2000	米国	日本	(アメリカ)東部
2010	日本	米国	東京

1995 年には，松屋銀座で，『永遠のアイビー展』が開かれていた．この展覧会についての記事が複数出ていることも，「日本」やその地名が多く出現したことに要因している．この時期の展覧会については，戦後 50 年が経過し，戦後を振り返る機運が高まり，「アイビー」も，振り返るための要素の 1 つとして挙げられたということである．このことから，「アイビー」が，戦後の文化に与えた，影響力の大きさを読み取ることができる．

2000 年代は，さらに記事件数が増加した．中でも 2005 年は，全体を通して最も記事件数が多かった．新聞記事の見出しを確認してみると，2005 年 5 月 25 日，ヴァンジャケットの創設者である，石津謙介氏が死去していた．

1960 年代から 40 年余りの時が経ち，他の年代には出現することのなかった，「懐かしい」という言葉が 4 回出現していた．[表 6]

表 6．2000 年代

2000にだけ出現	2000によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
懐かしい　提供 ブリック　トレーナー 週刊誌　アメリカ村 お金　けん引　入門書 デザイナーズブランド そのもの　意識　創始 仕掛け人　事務所 リード　仕上げる 育てる　ちなむ　買う 音楽　クールビズ　通称 紺色　愛好　先端 大橋歩　昭和初期　以上 中村	ＶＡＮ　ボタンダウン シャツ　東部　石津 世代　時代　提案　写真 受ける　呼ぶ ジャケット　名門　話す 包む　デザイン 取り入れる　知る　洗礼 ミニスカート　団塊世代 ボタン　見る　生み出す 平凡パンチ　倒産　三つ あこがれ　一世　広める	アイビー　ルック ファッション　年代 流行　スタイル　若者 米国　日本　学生 アイビーリーグ ブランド　ブーム　人気 石津謙介　男性 名門大学　着る　当時 ブレザー　戦後　若い 東京　服装　みゆき族 紹介　トラッド　復活 銀座　集める	大学　アメリカ　大学生 装い　おしゃれ アメリカ東部　ＩＶＹ 伝統　昭和　多い　生活 キャンパス　展示　出身 リーガー　注目 エリート　エール 写真集　中心　振り返る ハーバード　好む　感覚 彼ら　まねる　支持 企画　会社　学生服	男子　コンチネンタル ズボン　である　VAN メーカー　洋服　基本 愛用　見せる　不良 取材　前後　モデル ごろ　お手本　販売 評価　教科書　変遷 来年　背広　広い　白い ぼく　とる　いえる 合う　切り口　分析

石津謙介氏の死去により，「アイビー」についての記事が多く出た．その記事により，かつて「アイビー」を着ていた世代が，定年退職が近づき，または迎え，「アイビー」を再び目にすることで，青春時代を懐かしむ空気が，2000 年代に広がっていたのではないかと考える．

また，2000 年代には，「あこがれ」という言葉も多く出現していた．これらの文からも，若かりし頃を，美しく懐かしんでいる様子が見て取れた．また，あこがれの対象は，豊かな国アメリカの文化にあった．さらに，服装だけではなく，生き方やライフスタイルにあこがれていたことが分かった．

2000 年代は，「団塊(の)世代」という言葉も多く出現していた．各年代と合わせて見ると，以下のようになる．[図 4]

これだけを見ると，記事件数の多さが要因なのではないかとも考えられるが，先に挙げた「懐かしい」という言葉の出現も合わせると，この 2000 年代は，やはり，他の年代以上に，団塊世代が注

目されていたのではないかと考える．

最後に，1960 年代で，批判的目線が，時が経つうちに徐々に薄まっていったのではないかと述べたが，「アイビー」を好んで着た世代の社会的地位が高まったことも要因すると考える．

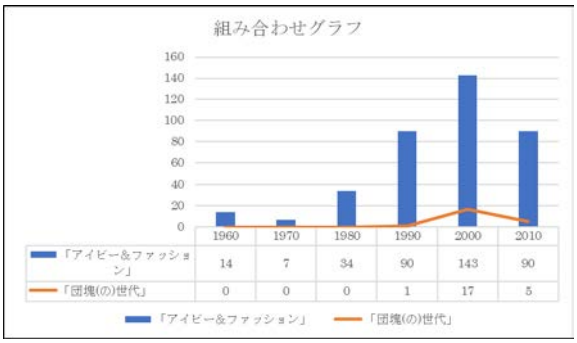


図 4．「団塊(の)世代」

2010 年代には，1960 年代に出現するマイナスイメージの言葉とは相対する，「評価」という言葉が出現していた．[表 7]

表 7．2010 年代

2010(～2017)にだけ出現	2010(～2017)によく出る	両方によく出る	以外によく出る	以外にだけ出現
取材 モデル 評価	名門大学 ブレザー	アイビー ルック	シャツ ボタンダウン	昭和 ミニスカート
ビューティフル 秀典	東京 集める 装い	ファッション 年代	世代 受ける 復活	若者たち 一つ
アメリカ東海岸 細切	服飾 ＩＶＹ 持つ	ＶＡＮ 流行 スタイル	銀座 おしゃれ 名門	コンチネンタル 倒産
ピープル イベント	多い ヴァンチャケット	若者 米国 日本 学生	ジーンズ	団塊の世代 ズボン
見直す 大学時代 披露	デザイナー 聞く	アイビーリーグ	ライフスタイル	映画 英国 ＤＣ VAN
コレ クールジャパン	パンツ 展示 合わせる	ブランド ブーム 東部	デザイン アメリカ東部	メンズクラブ 全国
ルポ 創業者 七三分け	注目 出身 通う 定番	石津謙介 人気 男性	知る 洗礼 生み出す	感覚 メーカー 経験
起源 企画展	象徴 カット 評論	石津 大学 着る 当時	できる キャンパス	基本 ツタ ネクタイ
ファッション工科大学	好む 写真集 としゆき	アメリカ 時代 戦後	いく メンズ あこがれ	カジ ビートルズ 永遠
アストラ 製造 1月	ハーバード大 ＴＡＫＥ	提案 写真 若い 服装	リーガー なかった	展開 その後 後半
刺激 夢中 パワー	まねる 関心 高い	呼ぶ	エリート 私大 中心	コーネル つく
オシャレ 印象 触発			エール 半ば 創業	懐かしい こだわる
教える			東海岸	

また，評価の場は，日本ではなく，海外，米国にあることが分かった．さらに，「アイビー」のスタイルを生んだアメリカではなく，かつて「アイビー」のスタイルを輸入した側である日本に，そのスタイルが今もなお残っているという事実も分かった．

３．まとめと今後の課題

「ファッション」についての記事が増加し続けているのに対し，「アイビー」を含む記事，「アイビー」を題材とした記事は，1970 年代に一度減少していることが分かった．また，2000 年代まで増加し続けていた．

その要因に，1970 年代にヴァンジャケットの倒産，2000 年代にその創設者である石津謙介氏の死去が考えられた．このことから，「アイビー」というスタイルにおける，ヴァンジャケット及び石津謙介氏の影響力がいかに大きなものであったかが読み取れた．

さらに，考察したい年代とそれ以外の年代の比較解析を行い，その年代にのみ出現する言葉，多く出現する言葉について見た．1960 年代は，「補導」，「物申す」といったマイナスイメージの言葉が多く出現した．これは，社会から批判的な目線が向けられていたことを意味するが，年代を経るにつれ，マイナスイメージの言葉，批判的な目線は，徐々に見られなくなっていった．1970 年代は，ヴァンジャケットが倒産した年であるが，唯一あった記事が倒産から 1 年後のものであった．このことから，1970 年代における「アイビー」の衰退と，それについての社会の注目度の低さが考えられる．1980 年代に入ると，「復活」という言葉が出現した．これは 1990 年代以降も出現しており，このことから，「アイビー」は，「復活」を繰り返し続けていることが分かった．1990 年代は，「アイビー」発祥の国である「米国」よりも，「日本」が，単語の頻出度が高くなった．これは，「アイビー」というスタイルの概念に，アメリカ発のスタイルである，ということと共に，かつて日本で流行したスタイルであるということも加わったためだ．2000 年代には，「団塊(の)世代」，「懐かしい」，「あこがれ」という言葉が出現し，かつて「アイビー」を着た世代が，青春時代を思い返すような内容が多く見られ，石津謙介氏の死去と共に，記事件数増加の一因となった．2010 年代に入ると，アメリカで再注目されているといった記事が出現するが，記事件数は増加していなかった．

また，今回，研究を進めていくなかで，新たな課題も見つかった．1 つ目に，「ファッション」についての記事に対する各新聞社の姿勢や特徴である．新聞社によって，記事件数の推移に多少の違いが見られた．記事内容も含めて見ていくことで，新聞社による「ファッション」についての記事の立ち位置が分かるのではないかと考える．

2 つ目に，「みゆき族」についてである．「みゆき族」とは，1964 年夏から初秋，銀座のみゆき通りをたむろした若者たちのことを言う．「みゆき族」は，「アイビー」のスタイルを着ていたとされているが，一方で，本来の「アイビー」とは異なっていたとされている．本来の「アイビー」と「みゆき族」が着た「アイビー」，社会の評価の相違点について見ることで，両者の境がはっきりするのではないかと考える．

最後に，本研究の反省点として，インターネット上でフリー使用できるテキストマイニングツール『ユーザーローカル』について記していく．これは，すべての解析を自動で行ってくれるため，テキストを打ち込む作業が主体となり，統計やテキストマイニングへの理解がほとんど深まらなかった．今後，より客観的に見ることのできる解析のための手段や方法を探していきたい．

謝辞

本研究は，大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生助成を受けたものであり，感謝申し上げます．

付記

本研究は，大妻女子大学人間生活文化研究所大学院生助成 DB2931「テキストマイニングによるスーツの捉え方の変遷」を受けて行ったものである．